

平成25年度見附市 生徒指導部 活動報告

副部長 三國 益栄

1 本年度研修活動の目的

今、子どもたちはインターネットを通じた情報があふれる社会の中で生活している。実際、学年が上がるにつれて、ネット上でのトラブルが増えている。そこで、身近に起こったネットトラブルの実例から、保護者・教師の役割とは何かを学ぶ。

2 研修活動の概要

「ネット社会における保護者、教師の役割 ～ネットトラブルの実例に学ぶ～」

○講演 見附警察生活安全課 課長 松澤 忍 様

○講演 長岡少年サポートセンター 成田 美和 様

・夜間、少年補導のため巡回するが、子どもたちの姿は見られない。小中学校の児童生徒の深夜徘徊はゼロであった。家の中で、ゲームや携帯・スマートフォン等を行っていることが考えられる。

・ゲーム機は通信機能を持っている。夜間は使用を制限するなど、保護者は注意を払う必要がある。

・長岡少年サポートセンターでは、少年相談や街頭指導、非行防止の講話等の事業を行っている。最近は、「ネットトラブル」に関連する講話の要望が多い。

<トラブルの事例> ・IDやパスワードを盗まれて悪用される。(なりすまし、自作自演)

・おもしろ動画や写真への書き込み(中傷など)

・有料アプリで多額の請求

・SNSがもとで、仲間はずし

(LINE、ツイッター)

・一度書き込みをすると、消すことができない。マナーを守り、相手を誹謗中傷する内容は絶対に送らない。個人が特定されるような個人情報は送らない。



3 成果と課題

◎インターネットにかかわる基本的な知識を、パワーポイントを使って示していただき、わかりやすかった。また身近な事例をもとに具体的なお話を聞くことができたので、今後起こり得るネットトラブルについての構えをもつことができ、有意義な研修となった。

●インターネットの世界は複雑で、日々新しくなっている。子どもの方がずっと先をいっている場合も少なくない。指導する側も内容をよく理解していないと、相談にのることも難しい。教師がネットに関する知識を身に付けることが、今後ますます必要になると感じた。同様に、保護者にインターネットの危険性を知らせる機会をもつことも大切だと考える。